

新潟本社行動計画の取り組み状況について

2020年度 第3四半期進捗報告



2021年 1月 18日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

1. 安全性向上の取り組み
2. 運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
 - ① 緊急時の初動体制
 - ② 新潟県との原子力防災に関する協力協定締結
 - ③ 新潟県原子力防災訓練への協力 **update**
 - ④ 要配慮者の避難に関する車両の配備 **update**
4. 地域貢献の取り組み
 - ① 長岡技術科学大学との共同研究 **update**
 - ② 地域行事への参加 **update**
5. 傾聴と対話の取り組み
 - ① コミュニケーションブース
 - ② 地域の皆さまへの説明会
 - ③ 発電所視察対応 **update**
 - ④ 広告 **update**

1. 安全性向上の取り組み（1/3）

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



<止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



1. 安全性向上の取り組み (2/3)

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

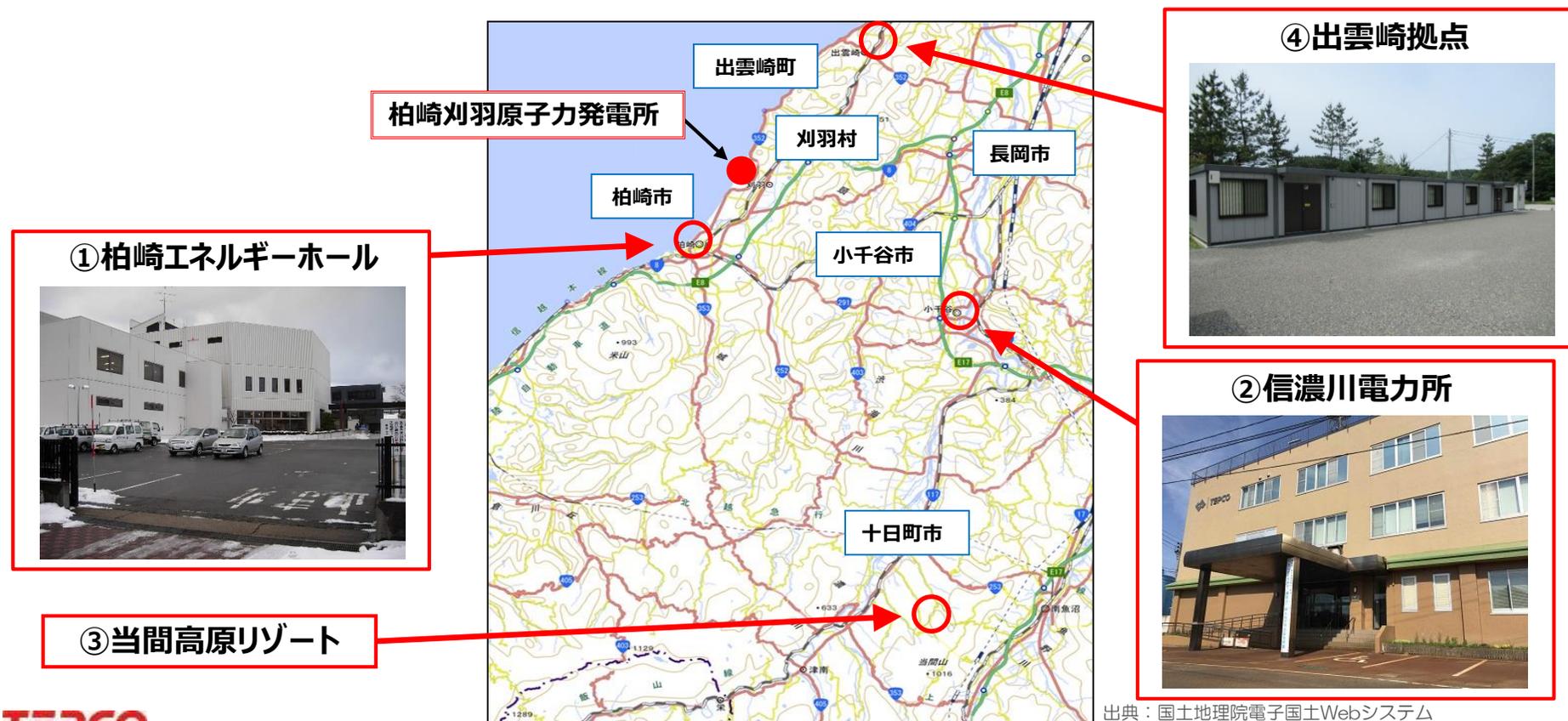
- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能で「代替循環冷却設備」を開発し設置
(審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け)
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



1. 安全性向上の取り組み (3/3)

<災害対策支援拠点の整備>

- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往来を管理するための拠点
- 当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾート、出雲崎拠点の4拠点を整備
- 災害対策支援拠点を多重化することで、支援活動を強化



出典：国土地理院電子国土Webシステム

2. 運営体制の構築の取り組み（1/2）

概要

- 新潟本社の設置
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

<新潟本社の設置>

- 2015年4月、新潟本社設立
 - 県内全域における広聴・広報活動や原子力災害時の避難支援策の検討・実施
- 2018年3月、新潟本社行動計画を策定し、活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設
- 2019年4月、新潟県の皆さまとのコミュニケーション活動をより強化していくため、柏崎市内のカムフィー2階に地域対応業務の拠点として新たにオフィスを開設
 - 「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを拠点としていた地域対応要員が、同オフィスへ移転。さらに、フリーアドレスを導入し、新潟本部や発電所内の地域活動要員も利用
 - 広聴活動で得られた地域の声を活かし、地元目線の取り組みを充実させていく

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



<カムフィー>



主な取り組み

<新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力>

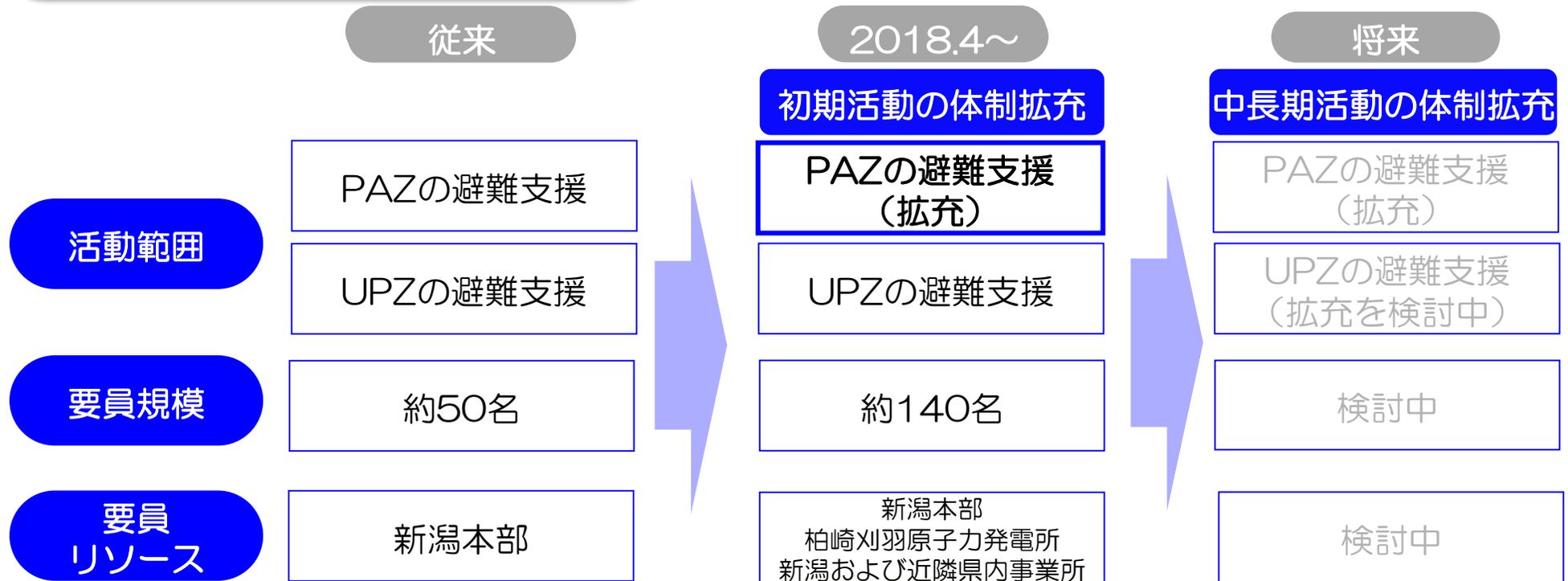
- 新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要なことであると考えており、ご協力をさせていただきます
 - 新潟県技術委員会
 - ・ 2012年より行われている福島第一原子力発電所の事故原因の検証について、ご協力させていただいております
(2020年10月26日、とりまとめられた検証報告書が、知事へ報告された)
 - 新潟県避難委員会
 - ・ 2017年より行われている原子力災害時の避難方法に関する検証について、ご協力させていただいております

- 新潟県技術委員会において、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策についても、ご協力させていただいております
 - 2020年10月28日、11月25、12月25日に「柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認事項21項目の内、当社が説明する19項目」について説明させていただいております

3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制（1/2）

- 「避難支援チーム」を、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県域および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員。また、防災や避難支援業務を専門とする社員が柏崎市内に常駐
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制 (2/2)

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現

→ 要員の動き

UPZ(概ね30km圏)

村上方面
避難経路所

新潟本部

PAZ(概ね5km圏)

柏崎刈羽原子力発電所

福祉施設・病院

「まもる・そなえる・こたえる」
オフィス

湯沢方面
避難経路所

妙高・糸魚川方面
避難経路所

新潟および近隣県内事業所

	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経路所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所

<介護技術講習>



<福祉車両>



3. 防災支援の取り組み ② 新潟県との原子力防災に関する協力協定締結

- 2020年10月16日、新潟県原子力災害広域避難計画に基づく防護措置の実効性を高めることを目的に、新潟県と「原子力防災に関する協力協定」を締結

【協力協定のポイント】

- 本協定に基づき、平時から要員や資機材の協力体制を構築するとともに、新潟県が実施する原子力防災訓練の振り返りに協力することで、協力体制等の改善を行っていく

【協力項目】

- ① スクリーニングに関する要員および資機材の支援
- ② 社会福祉施設に入所する要配慮者の避難に関する要員および車両の支援
- ③ 放射性物質拡散予測情報の提供
- ④ 訓練を通じた原子力災害時における協力体制の確認並びに訓練結果を踏まえた協力体制の検証および見直し

3. 防災支援の取り組み ③ 新潟県原子力防災訓練への協力

- 2020年10月20日、21日、24日に新潟県が実施する原子力防災訓練が行われた
- 「原子力防災に関する協力協定」に基づき、当社からは139名の社員が参加
- 本協定に基づき、原子力防災訓練の振り返りに協力し、協力体制等の改善を行っていく

<当社参加の訓練（参加実績）>

	訓練項目	当社実施内容	当社参加人数
原子力 防災 訓練	災害対策本部運営訓練等（10月20日）		
	新潟県災害対策本部等における運営訓練	新潟県災害対策本部等への発電所情報等の伝達	12名
	オフサイトセンターにおける運営訓練	オフサイトセンターへの発電所情報等の伝達	12名
	緊急時の通信連絡訓練	自治体等関係箇所への通報連絡文のFAX	2名
	緊急時のモニタリング訓練	UPZ圏内の放射線モニタリング	3名
	原子力災害医療訓練（10月21日）		
	原子力災害医療訓練	医療措置・救護活動	12名
	住民避難訓練等（10月24日）		
	PAZ内放射線防護対策施設の屋内退避	福祉車両を活用した避難	12名
	PAZ内住民避難訓練	避難経路所等の運営 (住民等の誘導の補助)	29名
UPZ内住民の屋内退避訓練	広域避難時における自治体支援	7名	
スクリーニング・簡易除染訓練	住民および避難車両のスクリーニングと簡易除染	50名	

10月20日 オフサイトセンターにおける運営訓練



10月24日 スクリーニング訓練



- 新潟県と締結した「原子力防災に関する協力協定※1」でお約束した「福祉車両31台※2」について、12月25日に配備を完了
- 今後も原子力災害に対する事業者としての責務を確実に果たしていくとともに、住民避難支援についても最大限のご協力を行う

※1 新潟県原子力災害広域避難計画に基づく防護措置の実効性を高めることを目的に、2020年10月16日に新潟県と当社で締結

※2 社会福祉施設に入所する要配慮者の避難に活用する車両

福祉車両の配備状況



「車いす利用者6名」を搬送するためのレイアウト



「ストレッチャー利用者2名+車いす利用者2名」を搬送するためのレイアウト



4. 地域貢献の取り組み ① 長岡技術科学大学との共同研究

- 2020年2月、長岡技術科学大学と防災・減災に関する共同研究の包括連携協定を締結し、5つの共同研究プロジェクトを立ち上げている
- 第3四半期（10月～12月）でのトピックスは以下の通り

教育・組織レジリエンス向上に関する研究

「地域の災害対応力の向上を目指した防災教材の開発」

- 10月から12月かけて、長岡技術科学大学と協働し、長岡市内の小学校（3校）、中学校（1校）で、防災に関する出前授業を実施
 - ・ 水害によって停電するメカニズムを、共同開発した実験キット※を用いて学習
※実験キット：模擬的に漏電を発生させ、漏電遮断器を動作させる装置
 - ・ 停電復旧時に問題となる通電火災から自宅を守る手段や帰宅後の電気の復旧方法などを学習
- 出前授業で得られたノウハウは、今後の共同研究に反映

4. 地域貢献の取り組み ② 地域行事への参加

<2020/10/1～2020/12/31の実績>

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
魚野川河川清掃（魚沼漁協）	10/4	湯沢地区の河川清掃作業	3名
魚野川河川清掃（魚沼漁協）	10/4	塩沢地区の河川清掃作業	3名
柏崎・夢の森公園「森づくり活動」	10/10	カキツバタエリアの除草作業	7名
2020おぢや謎とき！？ウォークラリー 「わくわく遊びの広場」	10/13	アトラクションゲームの補佐等	4名
柏崎潮風ウォーキング2020	10/18	運営のお手伝い	5名
谷根川さけの森づくり	10/24	サケ親魚の放流、植樹活動等	9名
柏崎港観光交流センター 夕海イベント	10/24 10/25	駐車場整理、飲食販売補助、場内整理、 遊具運営管理	25名
栄村・秋山郷 夢灯（ゆめほ）	10/31 11/1	会場設営、片付け作業、清掃作業	4名
松雲山荘紅葉観覧	11/6 11/11	車いすのお客さま介助等	4名
柏崎・夢の森公園「森づくり活動」	11/7	カキツバタの苗作り作業	4名
柏崎市パラスポーツ観戦・体験・講習会	11/7	パラスポーツ「ユニバーサルボッチャ」体験補助	8名
SDGs－Action 柏崎・夢の森公園 アジサイロード整備活動	11/23	アジサイロードの花柄摘み作業	24名

5. 傾聴と対話の取り組み ② 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

開催実績（新潟本社設立以降）

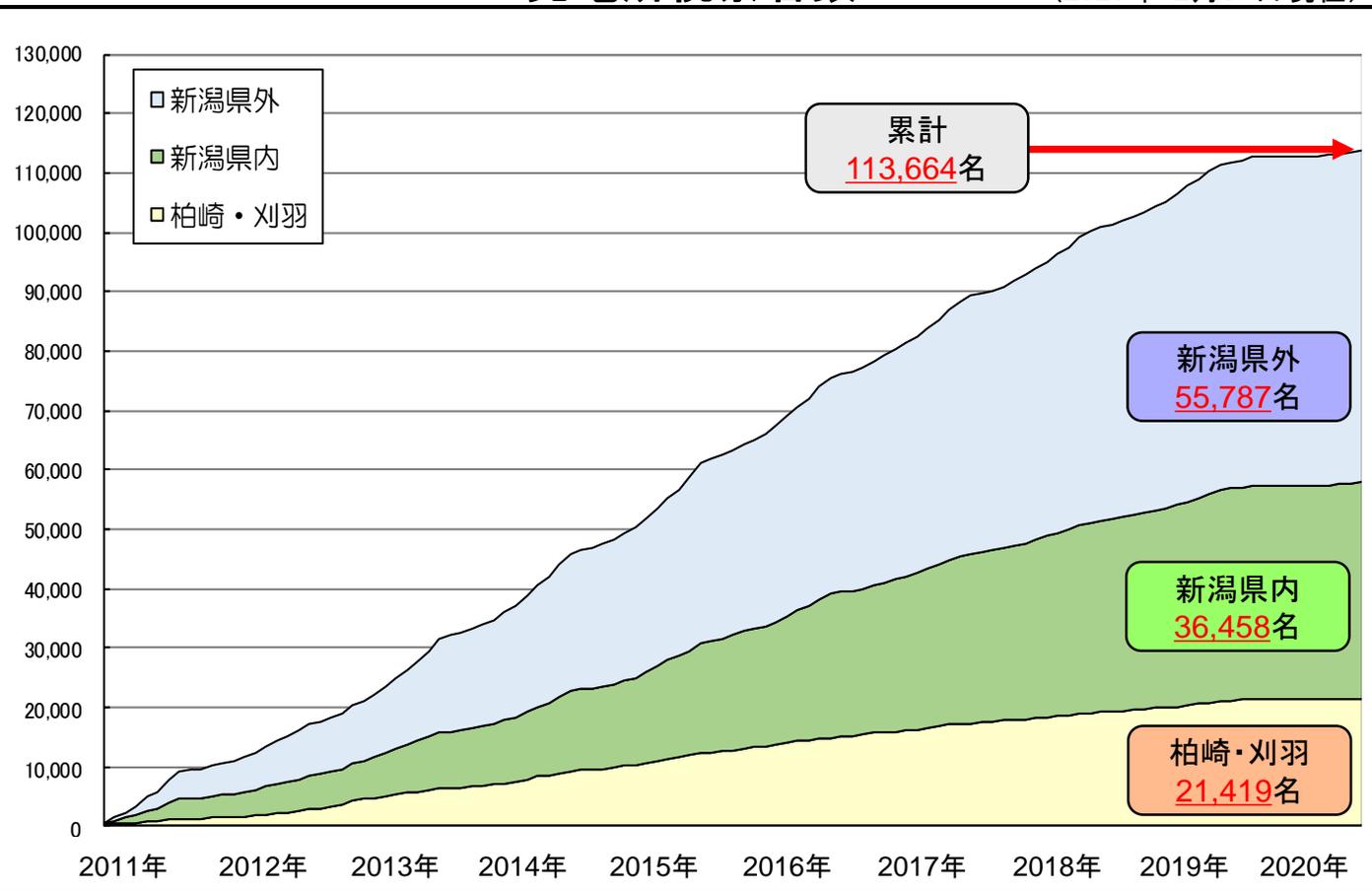
日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名



■ 新潟県内をはじめ、多くの皆さまに、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、取り組みを進めている柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などをご視察いただいております。

発電所視察者数

(2020年12月31日現在)



【防潮堤（5～7号機側）】



【貯水池】



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から「発電所のご視察」を2020年3月3日より中止しておりましたが、2020年7月1日より3密回避等の感染拡大防止対策を講じた上で、実施しております。

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や日本のエネルギー事情、当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施しております。

- 日本のエネルギー事情やエネルギーミックスの重要性、安全対策についてご紹介するWEB広告等を実施しております。
- 当社の取り組みについて、新聞折込チラシ「東京電力通信」でお知らせしております。

日本のエネルギー事情や
エネルギーミックスの重要性

発電所の安全対策

当社の取り組み



エミリーとエコロンのLet'sミックス!
(WEB広告)



エネルギーのそれ、なんで? 【特別編】
(WEB広告)



東京電力通信
(新聞折込チラシ)

以上